

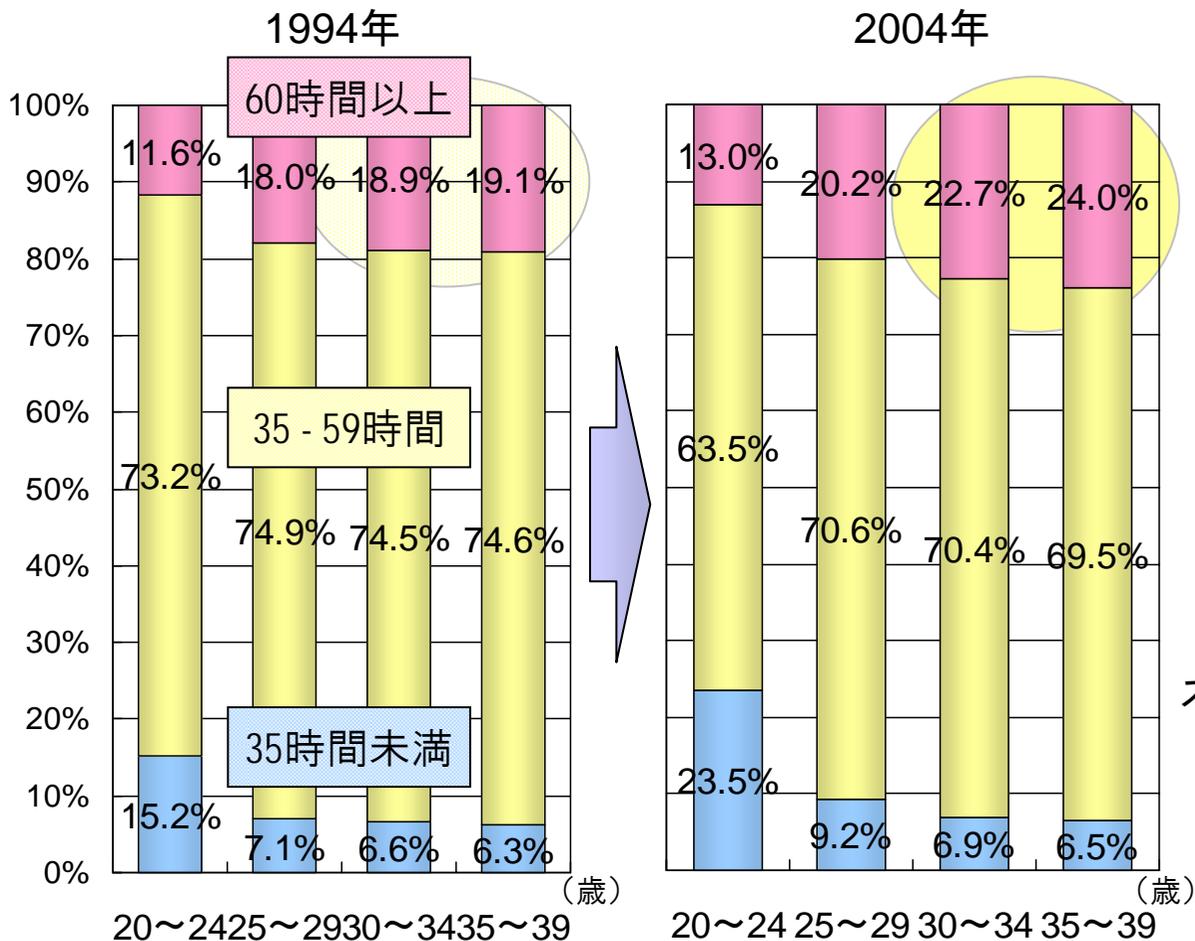
(参考)

少子化の社会的背景に関する参考資料

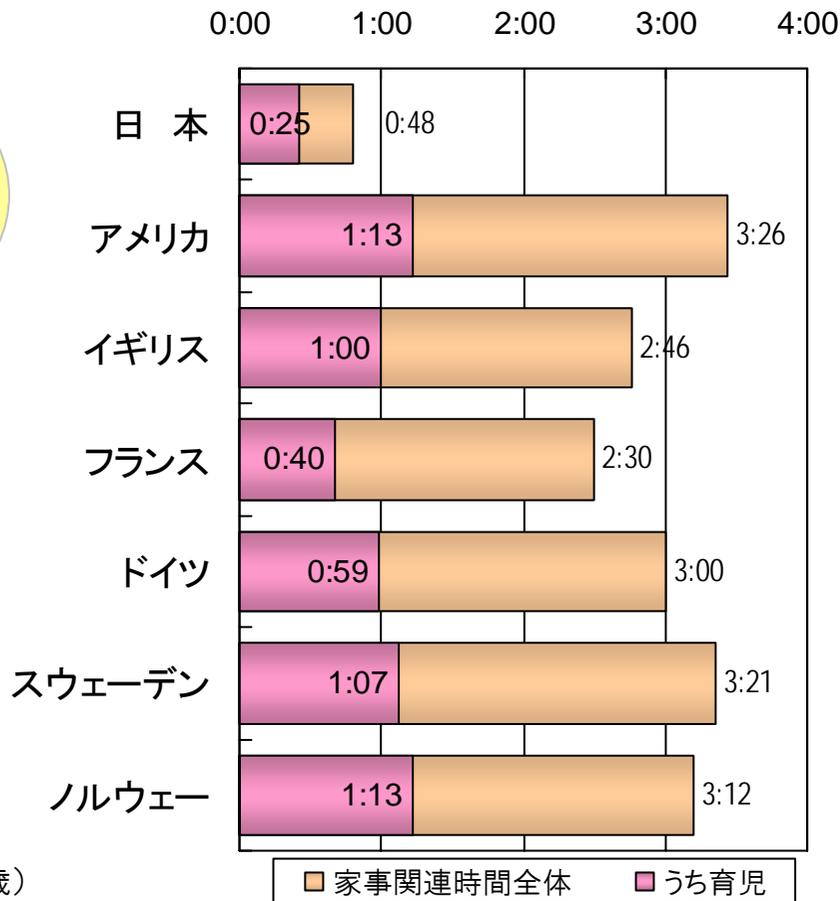
子育て世代の男性の長時間労働と短い家事・育児時間

- 子育て期にある30歳代男性の約4人に1人は週60時間以上就業。長時間就業者割合も増加。
- 我が国の男性の家事・育児に費やす時間は世界的にも最低の水準。

男性雇用労働者の1週間の就業時間



6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間



資料:厚生労働省「平成17年労働経済の分析」(総務省統計局「労働力調査」を厚生労働省労働政策担当参事官室にて特別集計)

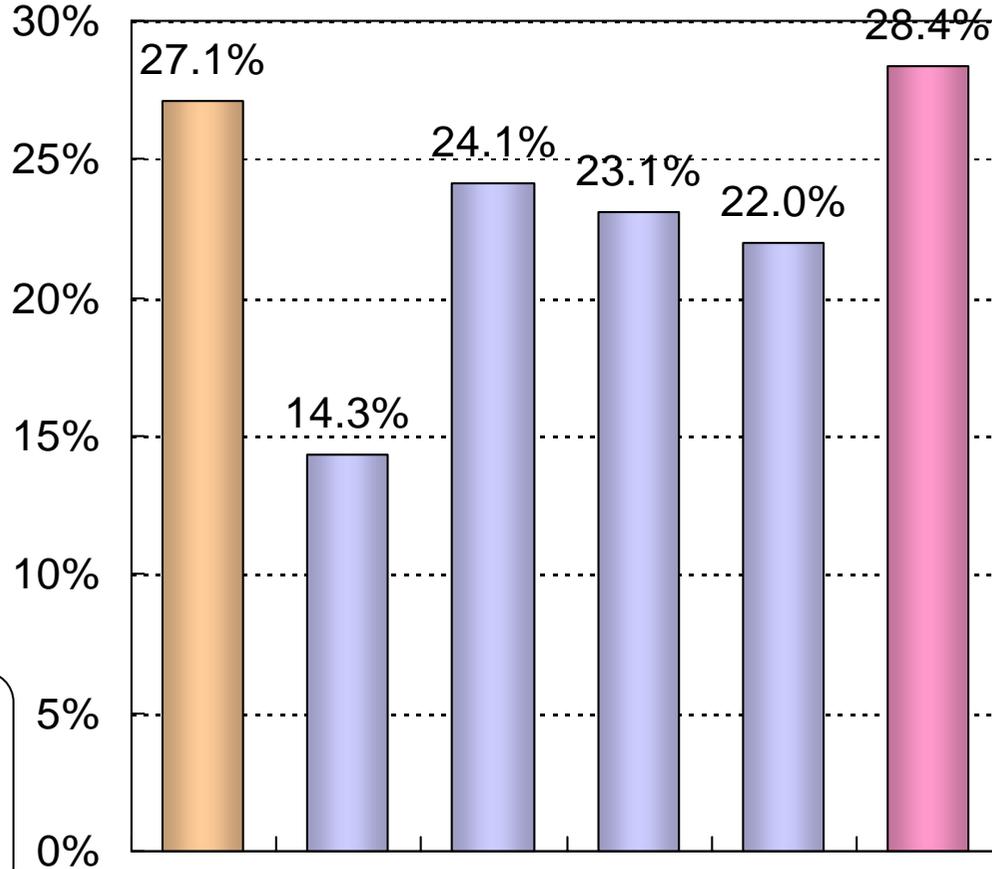
資料:Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men"(2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary"(2004)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)

夫の仕事時間、家事・育児時間の増減と出生

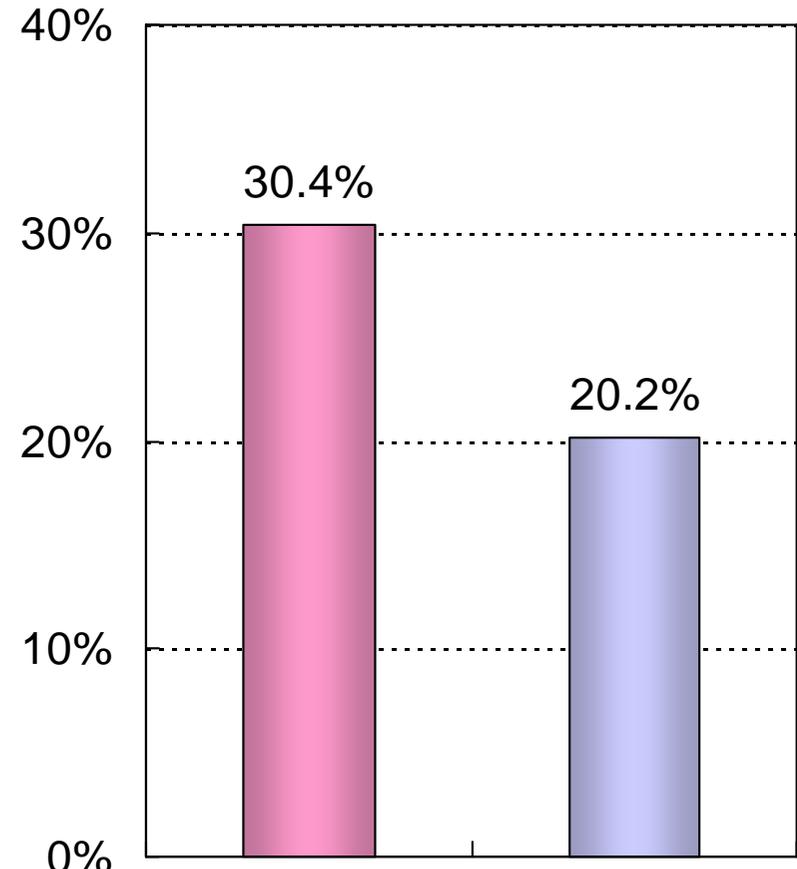
(第3回21世紀成年者縦断調査より)

【夫婦ともに子どもをほしいと考えており、第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間に子どもが生まれていない夫婦のうち、この1年間で子どもの生まれた割合】

仕事時間の増減と出生との関係



家事・育児時間の増減と出生との関係



第1回調査から第2回調査にかけての夫の1日の仕事時間(通勤時間を含む)の増減

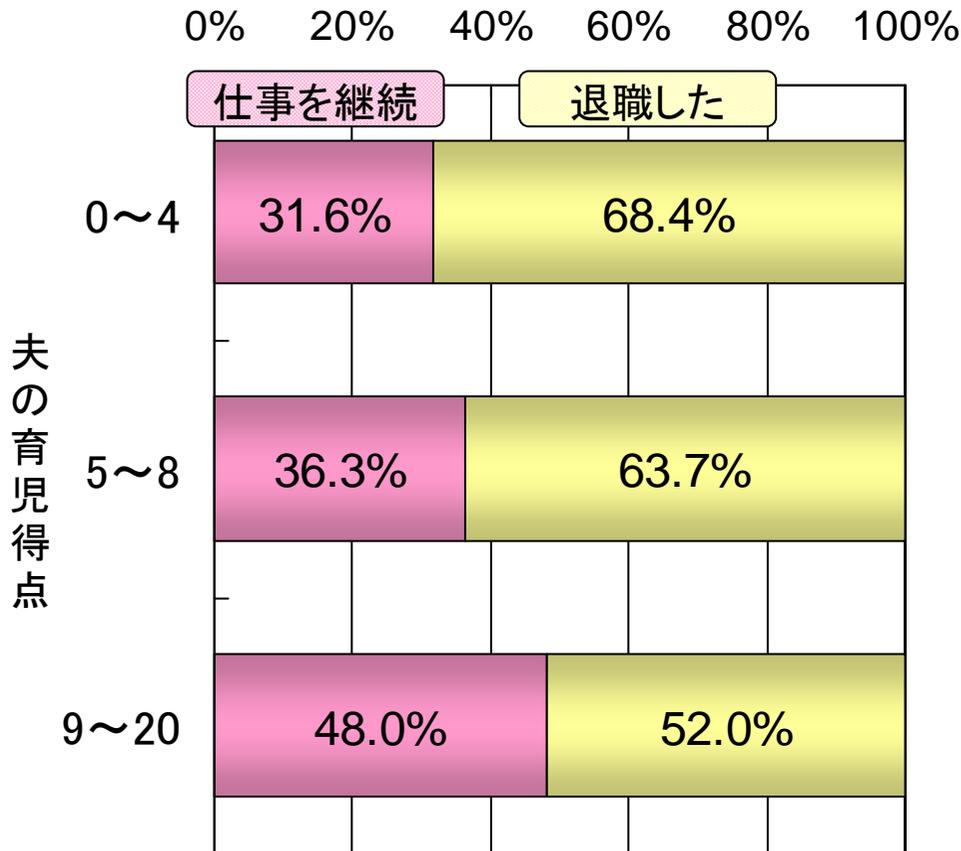
第1回調査の夫の1日の仕事時間(通勤時間を含む)

第1回調査から第2回調査にかけての夫の休日の家事・育児時間の増減

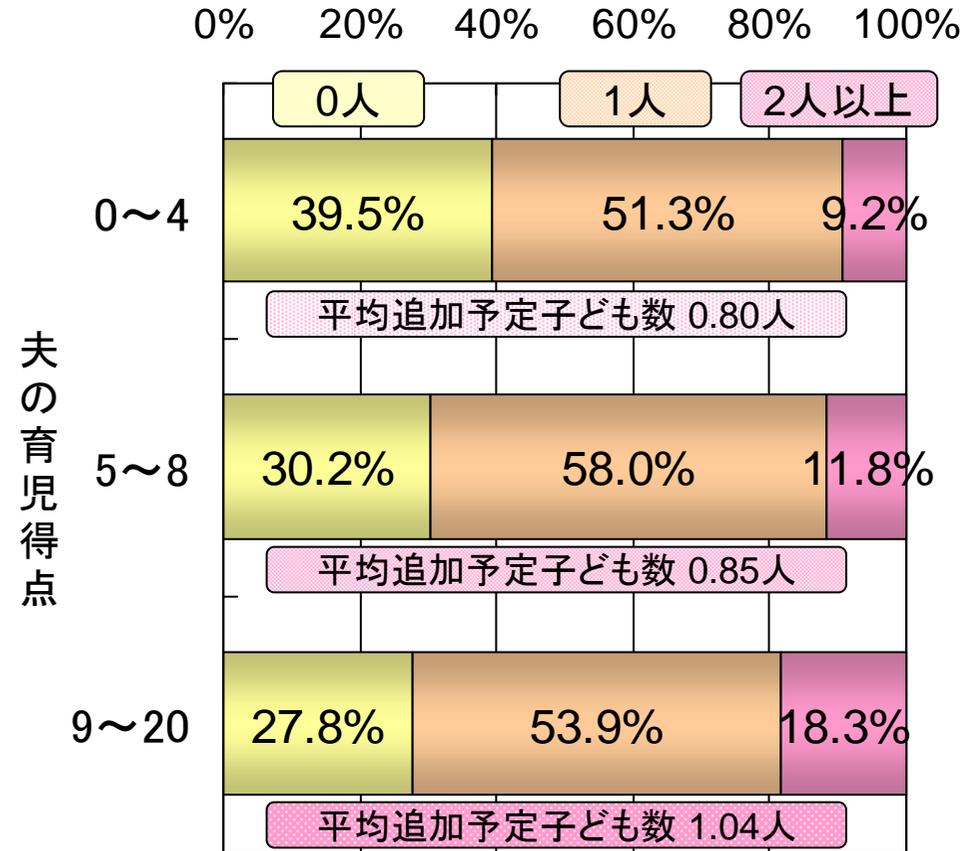
夫の育児参加度と追加予定子ども数、妻の就業継続

○ 男性の育児参加度が低い家庭では、妻の就業継続が難しく、また、追加予定子ども数も少なくなっている。

第一子出産時の妻の就業継続率



現在子ども一人の夫婦の追加予定子ども数



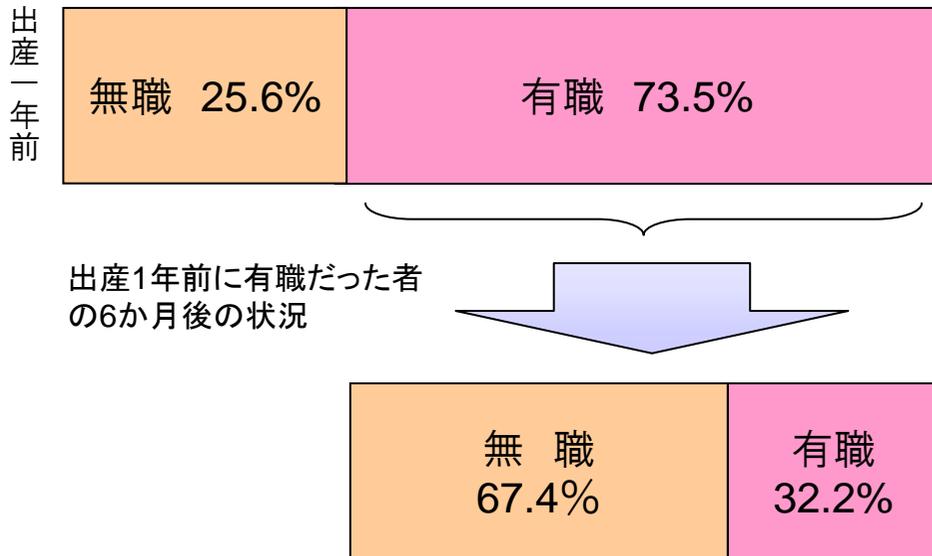
(注)「夫の育児得点」は、「遊び相手をする」、「風呂に入れる」、「食事をさせる」、「寝かしつける」、「おむつを替える」の領域別に、「月1~2回」(1点)、「週1~2回」(2点)、「週3~4回」(3点)、「毎日・毎回」(4点)、「やらない」(0点)とし、5領域の得点を合算したもの

資料：社会保障・人口問題研究所「第3回全国家庭動向調査」(平成15年)

仕事と子育ての両立ができる雇用環境の整備

○ 現状では子育てと就労の両立が難しく、出産に伴い7割近くの女性が離職しているが、育児休業が取得しやすい環境整備を進めた職場では出生は多くなっている。

第1子出産前後の女性の就業状況

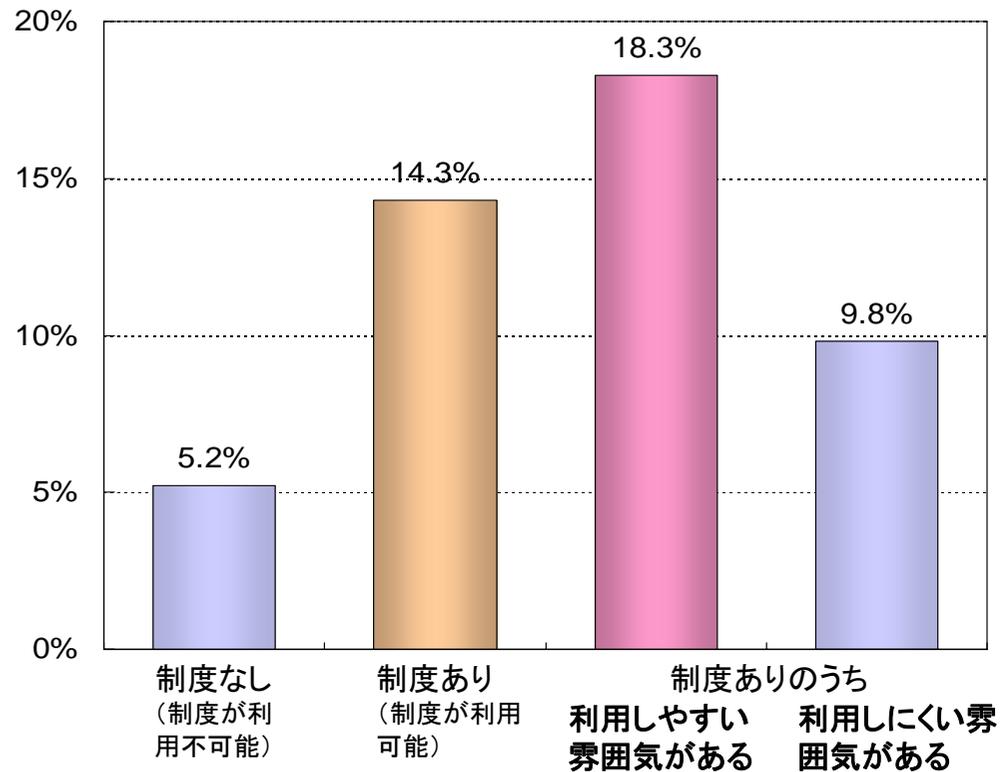


(資料)厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査」(平成13年)

育児休業の取得率

	女性	男性
平成16年	70.6%	0.56%
平成17年	72.3%	0.50%

妻の職場における育児休業制度の有無と出生



(注) 平成15年時点で妻が勤めていた夫婦(平成14年から15年の間に子どもの生まれたものを除く)のうち、平成16年までの1年間に子どもが生まれた割合

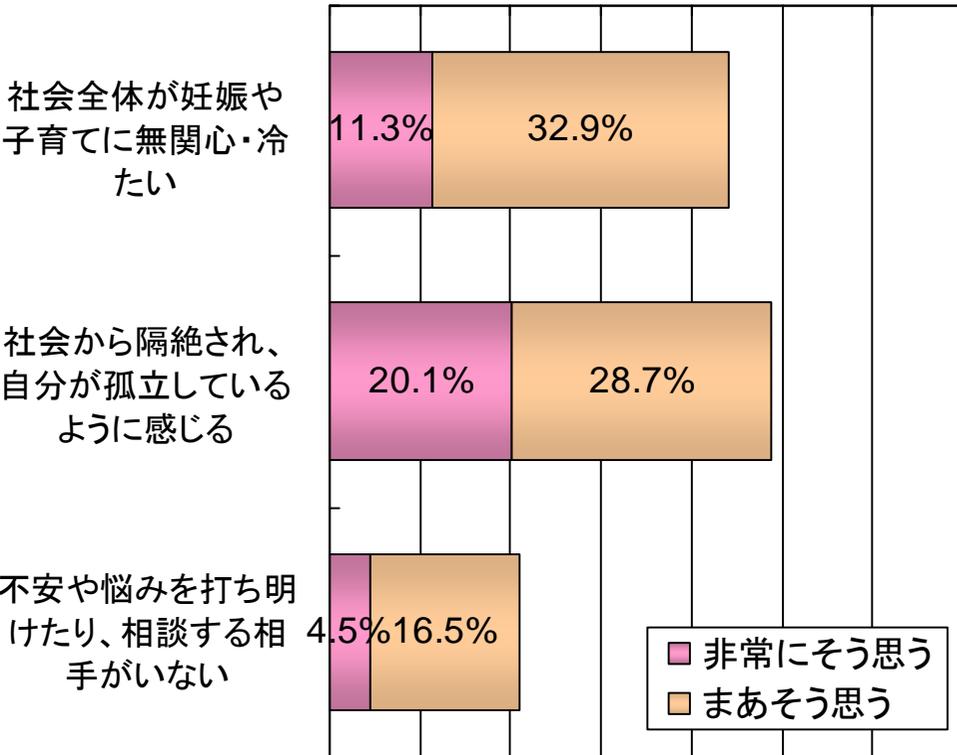
資料: 厚生労働省「第3回21世紀成年者縦断調査」(平成16年)

子育ての負担感

○ 地域協同体の機能が失われていく中で、相談相手や自分に代わって短時間子どもを預けられる人が得られず、子育てが孤立化し、負担感が大きくなっている。

妊娠中又は3歳未満の子どもを育てている
母親の周囲や世間の人々に対する意識

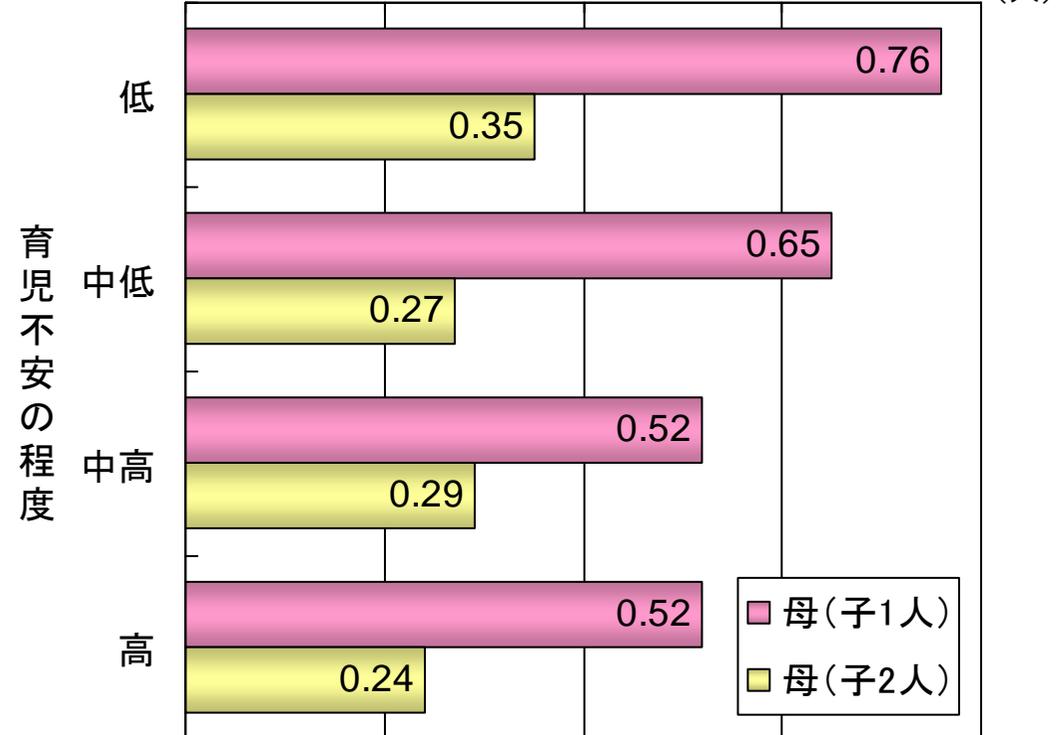
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%



資料: 財団法人こども未来財団「子育て中の母親の外出時等に関するアンケート調査結果」(2004年)

母の育児不安別に見た追加出産意欲
(追加で出産する予定の子ども数)

0 0.2 0.4 0.6 0.8 (人)

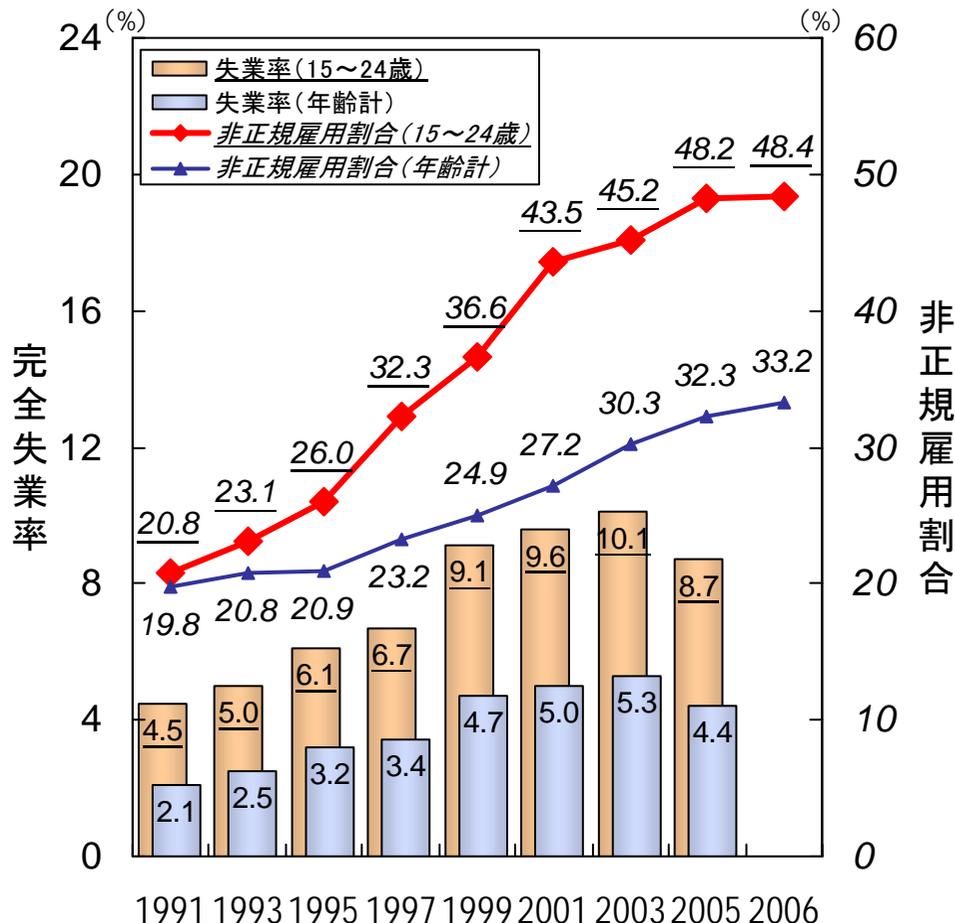


資料: (社)全国私立保育園連盟「乳幼児をかかえる保護者の子育ての現状 不安・悩み、出産意欲に関する調査」(平成18年3月)

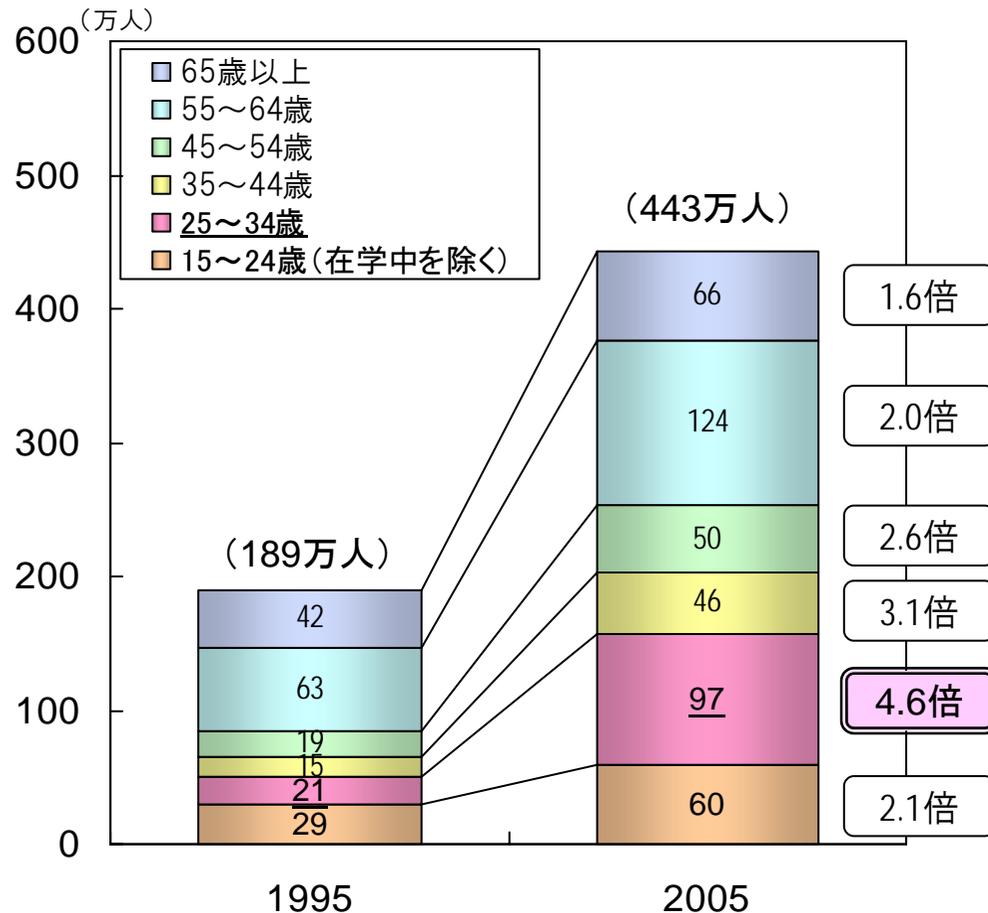
若年者の高失業率と非正規雇用の増加

○ 若年者の失業率は若干改善したものの、依然として高水準にある。また、15～24歳では半数近くが非正規雇用となり、男性の25～34歳でも非正規雇用者数が急増している。

若年者の失業率と非正規雇用割合の推移



男性の非正規雇用者数の推移



資料：総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査特別調査」、「労働力調査詳細結果」

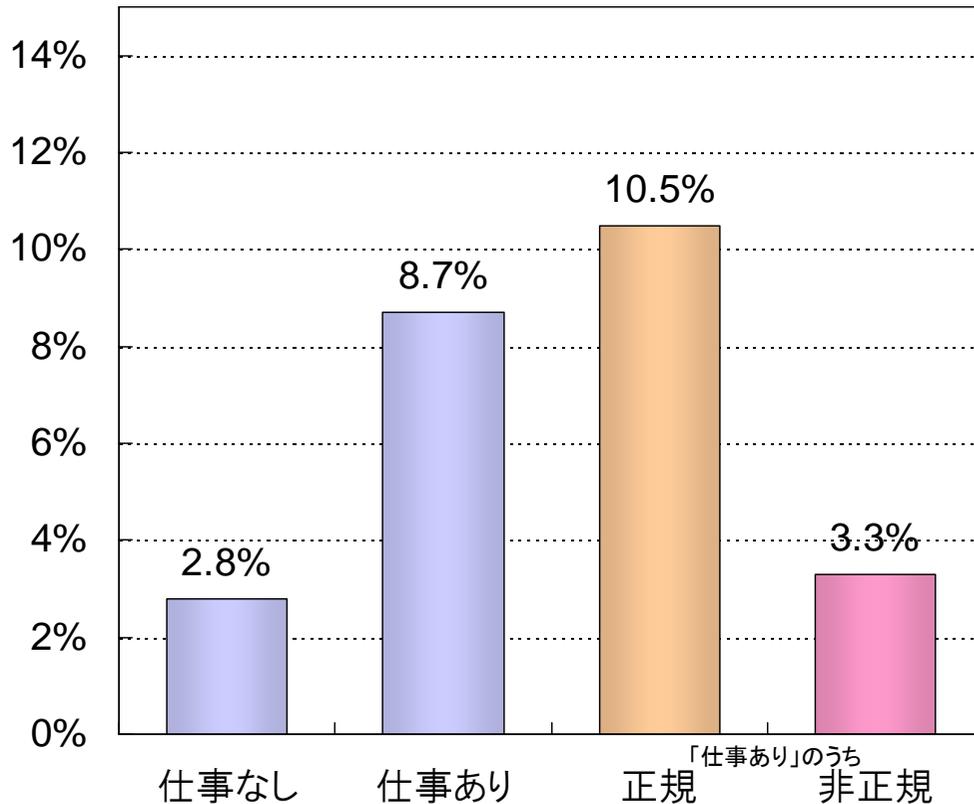
(注) 1. 失業率については、各年の平均。

2. 非正規雇用割合、非正規雇用者数については、平成13年までは「労働力調査特別調査」(2月調査)、平成14年以降は「労働力調査詳細結果」による。調査月(平成13年までは各年2月、平成14年以降は1～3月平均の値)が異なることなどから、時系列比較には注意を要する。

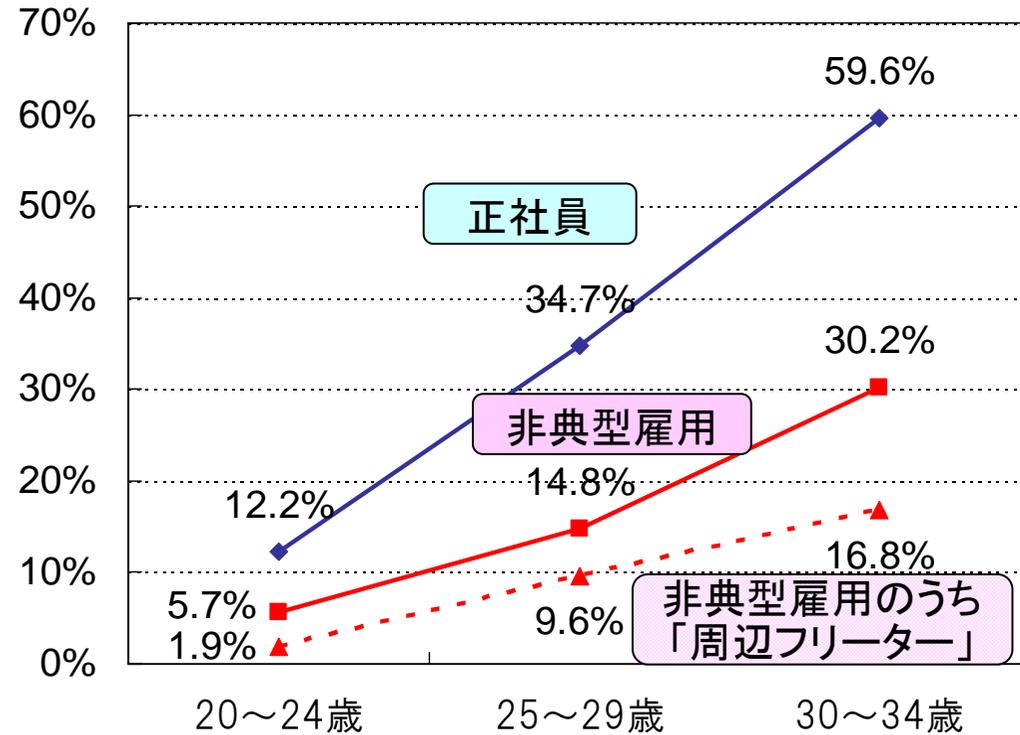
結婚や子育てができる基盤としての雇用

○ 雇用が不安定だと、家庭を築き子どもを生み育てていくことが難しく、特に非正規雇用の男性の多くが独身にとどまっている。

平成14年時点の男性独身者(20~34歳)のうち、その後2年間の間に結婚した割合



男性の就労形態別配偶者のいる割合 (平成14年)



(注)「周辺フリーター」:「アルバイト」または「パート」のうち、学生でも主婦でもなく、かつ、年間就業日数が99日以下または週労働時間が21時間以下の者